

# 派閥と金権

## 政治二三

自民党的パーティーチーム収入による裏金疑惑は派閥を舞台にした一大疑惑事件の様相を強めています。変わらぬ金権体質と派閥政治に国民の厳しい視線が注がれています。

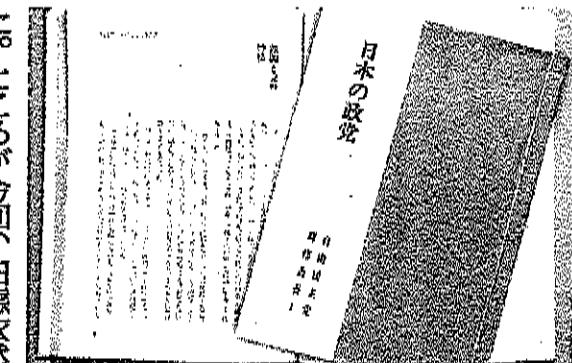
### 汚職を繰り返す

自民党は、繰り返す汚職事件のたびに、幾度も「脱派閥」を口にしてきました。

リクルート疑惑を受けて1989年にまとめた「政治改革大綱」では、「政治倫理の確立」「近代的国民党への改革」のためなどとして「派閥を解消」と宣言。「派閥と政治資金のかかわりや派閥の内閣、国会および党の全般にわたる人事への介在、派閥本位の選挙応援などさまざまな弊害」があると指摘し「現状のような派閥中心の党運営が続くなれば、党が真の意味での近代政党、国民党へ脱皮することは不可能である」として、党役員就任時の派閥離脱をはじめ諸改革を掲げまし

# 旧態依然の自民党

『日本の政党』(自由民主党修業書)から



1979年に自民党が発行した『日本の政党』(自由民主党修業書)は、今日の事態に連なる自民党の特質を鮮明に描いています。

同書は自民党について、左右両派が統一した社会党(1955年)に対抗するため「当時の保守系各派が合して「当時の保守系各派が合して」である政党」であり、「出発の時点から派閥の連合体だった」と明記。「資金、ポスト、その他の利益は派閥を通じて配分されるし、総裁選挙にあたっての活動も派閥単位に行われている」としています。

### 「野心家の連合」

また戦前からの保守政党の伝統を引き継ぐ自民党が「有

力者の連合体」である」といっておりはない、「その意味から自民党は『幹部政党』であって、党が国民大衆を組織する『大衆政党』ではない」とし「派閥とは、政局の中央にあって発言権を拡大しようとする中央の有力者(いわゆる「実力者」と、地方にあって中央との結びつきを強めようとしている地方有力者との結合体である」と述べています。「政治的野心家の全国的な大連合」とも云い規定。驚くほど率直に、自民党が理念や政策による結合体ではなく、権力志向で連携した近代的な人材的結合体であり、派閥は権力闘争の基礎、総理大臣をつけた集団だと自認しているのです。

そして「自民党」に対する批判として「特權階層の利害」として「特權階層の利害だけを代表する政党」とされて、「当時の保守系各派が合して」いることをあげ、「この批評にはすぐながらも説得力があった」とし、「確かに自由民主党の財政は、従来から大企業の政治献金に大幅に依存してきたのは事実」「党の財政が大企業に過度に依存してきた」と認識している。これに対しては、党員の拡大で「開かれた国民党」への脱皮をはかるとしていました。

### (2回目つづけ)